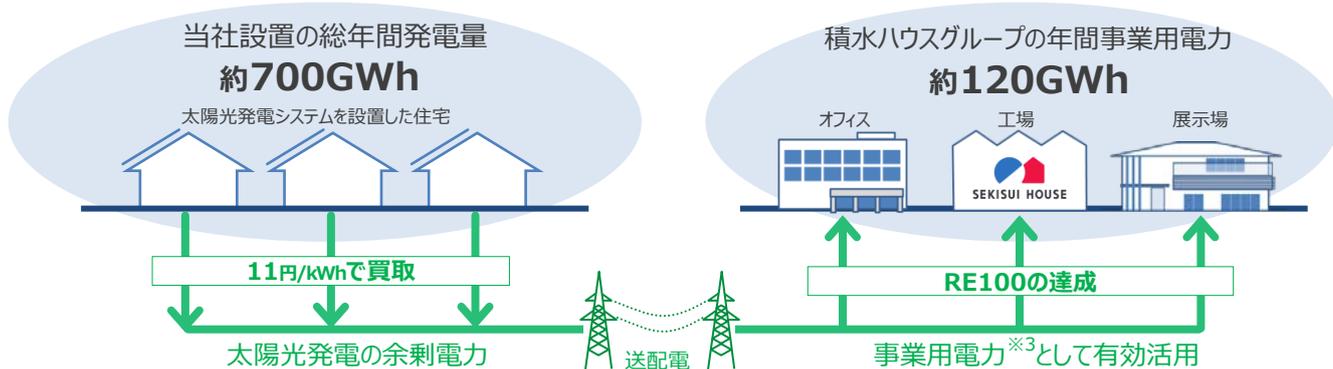


当社オーナーの卒FIT電力を買取り自社事業用電力に有効活用 「2019年問題」と「RE100」達成を同時に解決する 「積水ハウスオーナーでんき」開始

積水ハウス株式会社は、当社オーナー様から太陽光発電の余剰電力を買取り、自社グループの事業用電力として利用する「積水ハウスオーナーでんき^{※1}」を開始します。事前申込み受付を3月1日から始め、11月より事業を開始します。

開始当初の電力買取単価は11円/kWhとし、買取らせていただいた電力は「RE100」^{※2}の達成のために当社グループで有効活用することで、持続可能な社会の実現を目指します。

- 積水ハウスの卒FITオーナー限定「積水ハウスオーナーでんき」を開始
- 卒FIT電力買取単価は、11円/kWh
- 買取った電力を自社グループで利用し「RE100」達成を目指す



固定価格買取制度（FIT制度）は再生可能エネルギーを一定価格で一定期間買い取ることを国が約束する制度で2009年に開始されました。住宅用太陽光（10kW未満）の電力買取期間は10年間であり、2019年11月から順次買取期間満了（卒FIT）を迎える方は、余剰電力の取扱いを新たに検討していくこととなり、「2019年問題」とも言われています。

この度、当社は毎年1万件程の卒FITを迎える当社オーナー様に「積水ハウスオーナーでんき」への売電をご提案することとしました。リフォームで設置した蓄電池との併用で昼間に蓄電した余剰電力を夜間に使用するとともに、蓄電しきれない余剰電力について売電することも可能です。

当社は、これまでに戸建住宅や賃貸住宅などに累計で700MW以上の太陽光発電システムを設置しており、その年間発電量は約700GWhに達します。これらの約2～3割の卒FIT電力を買取ることで年間約120GWhの当社グループの事業用電力を賄うことができ、「RE100」の達成が可能と試算しています。

「積水ハウスオーナーでんき」は、ZEH比率76%（2017年度）の戸建住宅をはじめ、多くの太陽光発電システムを設置してきた当社だからこそできる、「2019年問題」における卒FITのオーナー様の不安解消と満足度向上、自社の「RE100」達成の2つの課題を同時に解決する独自のビジネスモデルです。

今後も積水ハウスは、環境負荷低減による持続可能な社会構築や顧客満足度の向上などに取り組み、ESG経営のリーディングカンパニーを目指します。

※1 「積水ハウスオーナーでんき」は積水ハウスの商標（出願中）です

※2 事業で使用するエネルギーを100%再生可能エネルギーで賄う取り組み

※3 事業用電力のコストは、卒FIT買取単価に加え、託送料等を加えた金額になります





積水ハウスオーナーでんき

SEKISUI HOUSE OWNER DENKI

「積水ハウスオーナーでんき」のロゴマーク

【ご参考】

<「積水ハウスオーナーでんき」で2040年までの「RE100」達成を目指す>

2017年10月、積水ハウスは建設業界では国内で初めて、事業活動において使用する電力を100%再生可能エネルギーにすることを旨とする「RE100」イニシアチブに加盟しました。

中間目標として、2030年までに事業活動で消費する電力の50%を再生可能エネルギーで賄い、2040年までに100%再生可能エネルギーとすることを目指しています。



<積水ハウスのESG経営における脱炭素化の取り組み>

「パリ協定」における日本の公約である2030年に温室効果ガス26%削減（2013年比）の達成のためには、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの普及が不可欠です。

積水ハウスはESG経営を推進する中で2008年には持続可能な社会構築のために「脱炭素宣言」を行い、業界に先駆けて低炭素と快適な生活を両立する住まいの供給を行ってきました。

「積水ハウスオーナーでんき」は、これまで当社製品を通じたオーナー様の暮らしの脱炭素化に加え、企業の事業活動の脱炭素化を進めるものです。

- 2009年以降、オーナー様の「快適・健康・環境配慮」を実現する「グリーンファースト戦略」を展開。
- 2013年からはZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）「グリーンファーストゼロ」の普及を開始、2017年度は新築戸建て住宅のZEH比率は76%と、政府目標（2020年に過半数）を大きく上回っています。また、累積普及棟数は35,881棟（2018年3月末現在）と日本最多の普及実績となっています。



「グリーンファーストゼロ」（ZEH）により、オーナー様の暮らしを脱炭素化



卒FIT電力の買取により、積水ハウスの事業活動を脱炭素化